

ハリケーンに備えて

これからヒューストンに暑い夏が訪れますが、それと同時にハリケーン・シーズンも始まりを告げます。毎年6月1日から11月30日までがハリケーン・シーズンとされており、中でも8月中旬から10月中旬頃が最盛期と言われています。ヒューストン近郊にハリケーンが上陸した場合には甚大な被害を受ける可能性があり、水や電気といったライフラインが長期間に亘り機能しなくなる恐れがあります。

ハリケーンは襲来を予測することが困難な自然災害ではありますが、いざ上陸した場合に備え、日頃から事前に十分な準備をしておくことが非常に大切になります。ここではハリケーンに関する基本的なことや過去にあった被害を振り返り、事前準備の重要性について述べさせていただきます。

米国では熱帯低気圧を最大風速に応じて分類しており、最大風速が時速39-73マイルに発達したものをTropical Stormと呼び、時速74マイル以上のものをハリケーンとしています。さらにハリケーンは風速の強さに応じてカテゴリー1から5までの5段階に分類され、カテゴリー3以上をMajor Hurricane(大型ハリケーン)と呼んでいます。日本の台風の強さと比較すると、Tropical Stormは表現のない「台風」に相当し、ハリケーンのカテゴリー1は「強い台風」、カテゴリー2は「非常に強い台風」、カテゴリー3以上は「猛烈な台風」に相当しますので、天気予報やニュースでTropical Stormやハリケーンが言及された際には台風との比較でその強さをイメージして頂ければと思います。尚、Tropical Stormとハリケーンには発生順にアルファベット順で名前が命名されます。

米国海洋大気庁(NOAA)の発表では、メキシコ湾のある大西洋側のTropical Stormとハリケーンの発生数は過去平均14個ですが、昨年は20個で1950年以来最多となりました。これは昨年歴史的に高かった大西洋の海面温度や強いエルニーニョ現象の影響と見られています。昨年発生

した20個の内、7個がハリケーン(内、大型ハリケーンが3個)でした。上陸したハリケーンはフロリダを襲ったIdaliaの一つだけでしたが、非常に大きな被害をもたらしました。また、ノースカロライナではTropical StormのOpheliaが上陸し、大規模な洪水の被害を受けています。

ヒューストンではここ数年ハリケーンによる大きな被害は受けていませんが、2017年にはカテゴリー4の大型ハリケーンHarveyが上陸し、米国観測史上最大の降水量を記録し、ヒューストンの1/3が水没、130万人と家屋13.5万軒が被災、1百万台の車両損壊、死者103名という甚大な被害をもたらしました。Harveyによる被害総額は米国の記録上2番目の規模となる1,525億ドルにも上るものでした。

商工会では2022年に自然災害に関する“備えあれば憂いなし”ウェビナーを開催し、Harveyで被災されたお二方の会員様から貴重な体験談をご講演頂き、実際に遭われた被害のご様子や、自然災害に備えて日頃からどのような準備が必要となるのか、また災害が発生した際にはどのような対応をしなければならないのかといったことにつきお話し頂きました。ウェビナーの様子は商工会ホームページの[「安全・危機管理情報ページ」](#)のハリケーン情報にご講演の録画映像と資料を掲載していますのでご覧になれます。また、こちらのページにはその他にも、ハリケーン関連情報の入手先、具体的にどのような準備が必要か、Harvey体験談等が収められていますのでご参照頂ければと思います。

今年もハリケーンの被害に遭うことがないように願っておりますが、自然災害ばかりは起こってしまえば避けることができません。ハリケーンはもちろんですが、比較的勢力の弱いTropical Stormであってもヒューストン近郊に上陸すれば洪水や停電、断水といった被害は起こりえますので、ハリケーンやTropical Stormが近付いてきた際には飲料水・生活水や食料、携帯電話の充電器、洗い物が不要な紙コップや紙皿等の確保、車のガソリンを満タンにする等、事前にしっかり準備をしていただければ幸いです。

(安全・危機管理特命理事 竹原 優)

会社紹介

Relo Redac Inc.

準会員 大島 達也 さん

1. 会社の業務内容等について簡単にご説明ください。

Relo Redac, Inc. (通称:リダック)は、企業・人・資産のリロケーション支援を目指し、1986年ニューヨークにて法人設立、その後2005年にリグループ(東証一部上場)のグループ会社となりました。事業内容としては、総合不動産サービス(住宅不動産、商業不動産、サービスアパートの運営、不動産投資・管理)と企業向けサービス(モビリティ・マネジメント・サービス、家賃・規程コンサルティング、法人向け賠償保険・医療保険)が二つの柱です。現在、在米の日系不動産企業としては最大規模となっており、全米13都市の拠点と全米のネットワークで日々リロケーションを支援しています。

2. ヒューストン/テキサス州の印象についてお聞かせください。

私は普段ミシガン州デトロイト郊外に住んでおり、数か月毎に一度の頻度でテキサス州各地に出張をしています。カナダ国境に面しているミシガン州(冬の厳しい州)からメキシコに隣接しているテキサス州(夏の暑さの厳しい州)に来ると気候の違いはもちろんですが、人々や街の多様性に驚き、改めてアメリカの大きさを実感しています。そして何より都市部の渋滞に毎回驚かされ、朝夕のラッシュアワーだけでなく、一日中渋滞が続いているというのが、真っ先に思い浮かぶヒューストン・テキサス州の印象です。また、一つの州に大都市と呼ばれる都市がいくつもあり、都市毎にそれぞれ特化している産業が異なるということもテキサス州を訪問し気づかされました。

3. その他、個人的な関心事(趣味等)についてお聞かせください。

日本では、学生時代から社会人になってからもずっと野球をしており、アメリカでも草野球をしたいと思っていたのですが、アメリカでは草野球よりもソフトボールの方が人気がある(ミシガンだけかもしれませんが)ということで、2013年に渡米して十年以上経ちますが、四月から十月は週に三から四日ペースで米人に混じりソフトボールを楽しんでいます。デトロイトの商工会主催のソフトボール大会では野球好きが集まっている日本人チームに所属し、現在六連覇中で毎年優勝後のビールかけを目当てに日々がんばっています。ヒューストンでも一度プレーしてみたいです。



右下しゃがんで青のゴーグルをもっているのが大島氏